

ぶぎん国内視察 沖縄県ワーケーション視察ツアー報告

ぶぎん地域経済研究所 調査事業部長兼上席研究員 藤坂 浩司

ぶぎん地域経済研究所は2023年3月8日～10日まで2泊3日の日程で、沖縄県を訪ねました。今視察は、“ワーケーション”をテーマに企画したもので、観光立県として知られる沖縄県内で進む新たな働き方の最新動向を中心に視察しました。新型コロナウイルス感染症により、ニューノーマル（新常态）と呼ばれる新たな生活様式が定着する一方、働き方改革を通じて社会人の勤務形態が大きく変わろうとしています。視察には事務局を含めて11人が参加し、ワーケーションに関する沖縄県内の官民の取り組みとして、うるま市ワーケーション推進事業と株式会社マッシグラ沖縄タイムスのシェアオフィスを訪問しました。さらには、中城港湾新港地区の取り組み事例、MROJapan 機体整備工場、沖縄の泡盛メーカー、久米仙酒造を視察し、最終日には世界遺産の今帰仁城跡と古宇利島などを訪ねました。

視察1日目

視察1：MRO Japan 機体整備工場

那覇に到着した視察団一行はまず、MROJapan株式会社の機体整備工場を視察しました。同社はANAホールディングスをはじめ、航空機部品の製造を手掛けるジャムコ、三菱重工業、沖縄県内の金融機関などが共同出資して設立した航空機の整備、修理を行う地元企業です。

機体整備工場は通常立ち入ることができない那覇空港の制限エリア内に立地し、厳重なチェックを経て施設内に到着しました。会社概要の説明後、スタッフ先導により工場内を見学しました。見学時は2023年から運航を開始する新潟県の地域航空会社、トキエア株式会社の双発旅客機の整備が行なわれていたほか、ANAの大型旅客機の機体塗装の塗り替え作業を間近に見ることができました。その後、工場内で使われる各種工具の説明を受けました。見学終了後にはライフジャケット（救命

視察スケジュール

3/8 (水)	午前	移動
	午後	MRO Japan 機体整備工場
3/9 (木)	午前	うるま市ワーケーション施設 hamachu見学 ぬちまーず（製塩工場）視察
	午後	企業立地サポートセンター訪問 賃貸工場視察 ㈱マッシグラ沖縄タイムス シェアオフィス視察
3/10 (金)	午前	観光 世界遺産「今帰仁城跡」、古宇利島
	午後	久米仙酒造(株)酒蔵見学、移動



「MROJapan」でライフジャケットの着用体験をする参加者



「浜比嘉島地域交流拠点施設」を背景に参加者一同で記念撮影

胴衣)の着用体験が行われ、実践しながらにガスを使ってジャケットを膨張させるなど貴重な体験を得ました。

視察 2 日目

視察 2 : うるま市ワーケーション施設

視察 2 日目午前はうるま市浜比嘉島に移動し、同市が 2022 年 7 月にオープンした「浜比嘉島地域交流拠点施設 (愛称: hamachu)」を訪ねました。

2012 年 3 月に閉校した旧浜中学校の校舎や教室をリノベーションした施設で、建物内にはレンタルオフィスやコワーキングスペース、会議室が用意されているほか、最大 37 人が宿泊できる宿泊施設、食堂、売店が備えられています。視察では、うるま市産業政策課、企画政策課の担当者より、うるま市が目指すワーケーション戦略「共創型ワーケーション」について説明を受けました。本取組みは、ワーケーション参加者が地元人材との出逢いを通じて、ワークショップや事業開発を実施し共創型のリーダーシップを育むことを目指すものです。

ワーケーションやテレワークの普及により、沖縄県で見られる近年の新しい傾向としては、組織トップが沖縄が好きで、沖縄に住んで仕事は県外という「住居型」や、同様にトップが沖縄が好きで、本社

とは別に沖縄に拠点を置いて、沖縄に通うところから事業をスタートさせる「拠点型」など、ビジネスモデルが多様化していると説明を受けました。

その後、一般社団法人プロモーションうるま代表理事の中村薫氏よりこの間の取組みや現在、注力していることについて説明をいただきました。同組織は 2013 年 1 月設立の地域商社で、中村氏は沖縄県内の飲食店でバーテンダーや店長をした経験を活かして、その後、県産品のブランド化や販路開拓、東京における沖縄飲食店の企画立案から立ち上げ、廃校を活用したイベントプロデュースなど地域活性化に関わる数多くの事業を手掛けられました。



「浜比嘉島地域交流拠点施設」見学風景

現在は島しょ地域の資源を活用したイベントとして、アート展や芸術祭などを精力的に開催していることや、角川ドワンゴ学園が経営するインターネットを活用した通信制高校「N 高等学校」が伊計島本校で行うスクーリング時の特別課外授業の企画・コーディネートを務めている事例などを紹介いただきました。

視察 2 日目

視察 3 : 沖縄県企業立地サポートセンター

浜比嘉島を後にした一行はうるま市内にある沖縄県企業立地サポートセンターを訪問、同センター長で中城湾港開発推進協議会事務局次長を務める友利伸之氏より、沖縄振興特別措置法に基づき創設された経済特区「国際物流拠点産業集積地域うるま・沖縄地区（中城湾港新港地区工業団地）」と、沖縄県中部東海岸の物流拠点として今後、取扱量の増加が期待されている中城湾港新港地区の説明を受けました。その後、バス車内から中城湾港新港地区を視察し、最後に工業団地内に立地する賃貸工場を見学しました。

視察 2 日目

視察 4 : 株式会社マッシュグラ沖縄タイムス

うるま市を後にした一行は夕刻、沖縄県内最大の商業施設、イオンモール沖縄ライカム店内にある株



「howlive イオンモール沖縄ライカム店」視察風景

式会社マッシュグラ沖縄タイムスが運営する「howlive イオンモール沖縄ライカム店」を訪問しました。

同社は不動産のブランド事業を手掛ける株式会社マッシュグラと沖縄県の地元新聞社、沖縄タイムスが2018年に合併設立した企業です。沖縄県内5カ所（フランチャイズ1店舗を含む）にコワーキングオフィスやシェアオフィスとして使えるフレキブルオフィスを展開しています。

当日は同社取締役で沖縄タイムス DX 推進部長の木下勝彦氏から会社設立の経緯やビジネスモデルの特徴、利用者の特性などについて説明を受けました。説明では、“沖縄”という地域特性と拡大するワーケーション需要を念頭にして、都市型立地のオフィスに加えて、目の前に海が広がる場所に店舗（読谷残波岬店）を立地するほか、全国から異業種のメン



浜比嘉島を繋ぐ橋から見る旧浜中学校
(現 浜比嘉島地域交流拠点施設)

浜比嘉島訪問記

浜比嘉島地域交流拠点施設がある浜比嘉島は周囲約7kmの小さな島で、1972年4月に開通したうるま市内の離島4島を結ぶ海中道路で陸続きとなった島です。島内には昔ながらの民家が立ち並び、沖縄県原風景が色濃く残されています。

視察団一行は午前中の視察が終わると、交流拠点施設近くにある地元漁師が経営する島の食堂に立ち寄りました。食堂は自宅を兼ねた作りで、一行は自宅居間のテーブルを囲み、談笑しながら昼食を摂りました。



木下取締役の説明を受ける視察団一同



「久米仙酒造」で説明を聞く参加者

バーが同社のオフィスに集まって、人的交流を兼ねた協業や新規事業開発に取り組んでいる事例を紹介いただきました。その後、木下取締役の案内で店内を視察しました。

視察 3 日目

視察 5 : 久米仙酒造株式会社

滞在最終日の午後、那覇市内にある泡盛メーカー、久米仙酒造株式会社を訪問しました。

同社は創業 70 年を超える老舗企業で、当日は比嘉洋一社長の案内のもと泡盛の製造工程を視察し、途中、酵母菌の発酵タンクを開けて、中の状態を見せていただきました。視察終了後は、同社の新たな取り組みとして泡盛・古酒の製造技術を活かしてバーボン樽で作られた本格ウイスキーを試飲しました。

視察最終日午前は、世界遺産に指定されている今帰仁城跡と古宇利島を訪問しました。



世界遺産・今帰仁城跡

視察参加者 (敬称略)

社名	参加者名
浦和商業開発株式会社	代表取締役社長 細渕 俊夫
ACS株式会社	専務取締役 魚本 信一郎
大村商事株式会社	代表取締役 大村 相哲
株式会社 ケーエムエフ	取締役社長 大森 敏之
株式会社 サンセイ	代表取締役会長 秋山 三知
株式会社 サンセイ	代表取締役社長 川口 哲
株式会社 サンセイ	業務統括次長 津田 智夫
株式会社 シンコーハウス	代表取締役社長 宇津城 尚俊
有限会社 本間エステートソリューション	代表取締役 本間 吉勝
ぶぎん地域経済研究所	代表取締役社長 小山 和也
ぶぎん地域経済研究所	調査事業部長 藤坂 浩司



世界遺産・今帰仁城跡